

# 化学療法クラスター

(代表：薬学研究科 化学療法学講座 杉本芳一)

近年、分子生物学を始めとする基礎研究によるがんの本態の解明が大きく進んでいる。がんの特異的な生存・増殖機構の解明は、がんで変化している分子の同定へとつながり、その阻害薬が開発されるようになってきた。そして現在、がんの分子標的治療が種々の進行がんや血液腫瘍の治療にめざましい効果を上げている。また、多くの製薬企業ががん治療薬の開発に力を入れているのも周知の事実である。

本クラスターでは、この大学院 GP において、がんの基礎生物学から、抗がん剤の分子標的、抗がん剤のスクリーニング、抗がん剤開発、臨床試験、新しい治療の導入、標準レジメンまでを統合して、4つのプログラムの中で学生に提供する。

国内外の第一線の基礎研究者・臨床研究者の熱気を肌で感じ取ってほしい。

- (1) 気鋭の基礎研究者のセミナーと、引き続いての round table discussion (必修)  
がんの基礎生物学、抗がん剤の分子標的、抗がん剤のスクリーニング
- (2) がん化学療法の国際シンポジウムへの招待 (希望者)  
抗がん剤の新しい分子標的  
世界における抗がん剤開発、臨床試験、新しい治療の導入
- (3) がん薬物療法の臨床医による講義 (希望者)  
日本における臨床試験、新しい治療の導入、標準レジメン
- (4) 他の研究室のラボミーティングへの参加 (希望者)

本クラスターは、「芝クラスター」の一つであり、下記の研究室が含まれる。

| キャンパス | 所属       | 研究室責任者 | 研究室 URL                                                                                                                                       |
|-------|----------|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 芝共立   | 化学療法学    | 杉本 芳一  | <a href="http://www.pha.keio.ac.jp/laboratory/laboratory15.html">http://www.pha.keio.ac.jp/laboratory/laboratory15.html</a>                   |
| 信濃町   | 先端医科学研究所 | 福田 恵一  |                                                                                                                                               |
| 信濃町   | 内科学      | 日比 紀文  | <a href="http://web.sc.itc.keio.ac.jp/medicine/index-jp.html">http://web.sc.itc.keio.ac.jp/medicine/index-jp.html</a>                         |
| 信濃町   | 外科学      | 北川 雄光  | <a href="http://web.sc.itc.keio.ac.jp/surgery/ggs/study_group/index.html">http://web.sc.itc.keio.ac.jp/surgery/ggs/study_group/index.html</a> |
| 信濃町   | 整形外科     | 戸山 芳昭  | <a href="http://www.keio-ortho.jp/">http://www.keio-ortho.jp/</a>                                                                             |
| 信濃町   | 小児科学     | 高橋 孝雄  | <a href="http://web.sc.itc.keio.ac.jp/pedia/index-jp.html">http://web.sc.itc.keio.ac.jp/pedia/index-jp.html</a>                               |
| 信濃町   | 産婦人科学    | 青木 大輔  |                                                                                                                                               |
| 信濃町   | 耳鼻咽喉科学   | 小川 郁   | <a href="http://www.keio-ent.jp">http://www.keio-ent.jp</a>                                                                                   |

## (1) クラスター必修：講義・ディスカッション・ラボツアー

化学療法学特論 B では、がんの基礎生物学から、抗がん剤の分子標的、抗がん剤のスクリーニングまでを視野に入れた講義を行う。

化学療法クラスターの学生は、以下の3日間の日程のどれか1日を選んで、午前中の講義とそれに引き続いての round table discussion に参加する。これは必修。

round table discussion については、全ての講師より参加の快諾を得ている。

また、医学研究科の学生に対しては、その後に、薬学研究科の紹介・化学療法学講座の紹介と、研究科内のツアーを行う。

### 1. 日程

6月12日(金) 6月19日(金) または7月3日(金)

### 2. 1日のスケジュール

A(9:20~12:30): 下表の化学療法学特論Bの講義の2コマを受講

B(12:30~14:00): 当日の講師及び教員を交えて、round table discussion

C(14:00~15:00): 薬学研究科の紹介、化学療法学講座の紹介とラボツアー

### 3. 必修要件

医学研究科の学生

どれか1日に、A、B、Cを通して参加する。

薬学研究科で、化学療法学特論Bの単位を取得する学生

Aは3日とも出席。どれか1日に、Bに参加する。

薬学研究科で、化学療法学特論Bの単位を取得しない学生

どれか1日に、A、Bを通して参加する。

### 4. 日程調整

化学療法クラスターに配属された学生のうち、薬学研究科、医学研究科それぞれで担当者を1名ずつ選ぶ。担当者は、研究科の学生の参加希望日をまとめて、化学療法学講座まで連絡すること。なお、各日のround table discussionの人数に大きな偏りが出ないように留意すること。

#### 「化学療法学特論B」

| 月・日・曜日   | 時限 |    | タイトル                        | 講師   | 所属と職名                          |
|----------|----|----|-----------------------------|------|--------------------------------|
| 6月12日(金) | 1  | 講義 | インビボ光イメージング技術を用いたがん研究の現状と未来 | 今村健志 | (財)癌研究会癌研究所生化学部・部長             |
| 6月12日(金) | 2  | 講義 | オーロラが照らした染色体分配のしくみ          | 広田 亨 | (財)癌研究会癌研究所実験病理部・部長            |
| 6月19日(金) | 1  | 講義 | キナーゼ阻害剤とがん分子標的治療            | 野口耕司 | 化学療法学講座・准教授                    |
| 6月19日(金) | 2  | 講義 | がん分子標的薬剤のケミカルバイオロジー         | 長田裕之 | (独)理化学研究所基幹研究所ケミカルバイオロジー領域・領域長 |
| 7月3日(金)  | 1  | 講義 | ユビキチン・プロテアソーム系              | 富田章弘 | (財)癌研究会癌化学療法センターゲノム研究部・部長      |
| 7月3日(金)  | 2  | 講義 | エイズに合併する悪性腫瘍の病理             | 片野晴隆 | 国立感染症研究所感染病理部第一室・室長            |

## (2) がん化学療法に関する国際会議への招待 (希望者のみ)

大学院在学中に、第一級の国際シンポジウムを体験しよう。

2009年12月2日(水)～3日(木) お台場のホテル日航東京において、The 14th International Symposium on Cancer Chemotherapy (第14回国際癌化学療法シンポジウム)が開催される予定である。

このシンポジウムに、化学療法クラスターで参加を希望する学生を招待する。希望者は直接化学療法学講座まで申し出ること(参加費4万円がただ!)

このシンポジウムでは、15～20人の日米欧のがん研究者が、抗がん剤の新しい分子標的、世界における抗がん剤開発、臨床試験、新しい治療の導入などについて講演する。今年のプログラムはまだ作成中だが、以下の招待講演者を予定している。

Bruce A. Chabner (MGH Cancer Center, USA)

Mark J. Ratain (Univ. Chicago, USA)

Robert H. Shoemaker (NCI FCRDC, USA)

Manuel Hidalgo (Universitat de les Illes Balears, Spain)

David R. Newell (Univ. Newcastle Upon Tyne, UK)

Jaap Verweij (Erasmus Univ. Medical Ctr, Netherlands)

過去のシンポジウム等については、ホームページを参照のこと。

<http://iscc.umin.jp/>

## (3) クラスター自由選択講義・セミナー (希望者のみ)

下記「がん化学療法に関する最新知識 2009」では、日本のがん薬物療法、がん分子標的治療をリードする著名な臨床医を招いて、最新のがん薬物療法についての講義を行う。1日に80分講義を2コマ、18時30分より21時20分の夜間講義である。

この講義には、大学院生から製薬企業の人やがん専門薬剤師まで、毎年100名以上の参加者がある。今の日本のがん薬物療法における、臨床試験、新しい治療の導入、標準レジメンなどを学ぶいい機会である。

### 「がん化学療法に関する最新知識 2009」

| 月・日・曜日   | 時限        |    | タイトル               | 担当者   | 所属と職名                   |
|----------|-----------|----|--------------------|-------|-------------------------|
| 9月3日(木)  | 夜間<br>1・2 | 講義 | がん薬物療法概論           | 中根実   | 武蔵野赤十字病院血液腫瘍内科・副部長      |
| 9月10日(木) | 夜間<br>1・2 | 講義 | 肺がんの病態と化学療法・分子標的治療 | 大江裕一郎 | 国立がんセンター中央病院肺内科・医長      |
| 9月17日(木) | 夜間<br>1・2 | 講義 | がんホルモン・骨転移         | 高橋俊二  | (財)癌研究会有明病院化学療法科・担当部長   |
| 9月24日(木) | 夜間<br>1・2 | 講義 | 抗がん剤の治療・臨床試験・臨床評価  | 藤原康弘  | 国立がんセンター中央病院通院治療センター・部長 |

#### (4) ラボミーティングへの参加 (希望者のみ)

クラスター内で、それぞれの研究室のラボ・ミーティング等に参加を希望する場合は、研究室責任者が承認した範囲内において、事前連絡して守秘義務を負った上で、参加することができる。個人情報等諸般の事情により、研究室責任者が参加を認めないミーティングもあるので、必ず事前に研究室責任者に直接問い合わせること（連絡先は、上記の各 URL 等を参照）。